

FE/GbE L2 TESTER 1070A 更新履歴

■更新日 2018年4月1日 Ver.d213-0152

- ・USBコントローラの部品変更に対応するバージョンアップを行いました。

■更新日 2012年8月1日 Ver.d231-0151

- ・タッチパネルコントローラの最適化を行いました。

■更新日 2012年1月27日 Ver.d213-0150

- ・接続確認機能測定動作の最適化

■更新日 2011年12月1日 Ver.d210-0148

- ・工場出荷時設定の最適化を行いました。

■更新日 2010年9月14日 Ver.d210-0132

1. ETHER OAM機能追加

- ・ETH-CC(IEEE)のフレームフォーマットの設定ができるようになりました。
- ・ETH-LBの連続実行による試験操作が可能になりました。
- ・ETH-CC(IEEE)のOPTION TLVに対応しました。
- ・ETH-LTのOPTION TLVに対応しました。
- ・その他操作改善

2. ペアラ品質測定機能改善

- ・全ての使用率を0.1%単位で任意設定可能としました。
- ・分単位で送信時間の任意設定を可能としました。
(1分単位の10進入力追加、最大60分)

3. PING (IPv4) 測定機能改善

- ・測定回数を任意に設定可能としました。(最大10,000回)

FE/GbE L2 TESTER 1070A 更新履歴

■更新日 2010年7月1日 Ver.d210-0125

1. ベアラ品質測定機能、接続確認機能を改善

- ・VLAN2のPIDとIDを両方同時に0に設定出来ないよう、誤操作防止のための改善を行いました。
- ・その他の改善

■更新日 2009年8月19日 Ver.d20c-010d

1. ベアラ品質測定機能改善

- ・損失の検出ロジックの見直しを行い、フレームの順序入れ替わりがあった場合も損失として検出できるようになりました。

2. ベアラ品質測定、Ether OAM、PING (IPv4) 機能改善

- ・取扱説明書に記載しているネットワークへの接続手順以外でネットワークに接続した場合でも、測定開始後、通常通り結果がカウントアップできるようになりました。

■更新日 2009年2月10日 Ver.d20a-0108

1. ベアラ品質測定 機能追加

- ・試験データのフレームパターンが選択できます。(PN15、ALL' 0'、ALL' 1')
- ・ビットエラーの検出及び挿入ができます。(フレームパターンがPN15の時)
- ・最大フレームサイズを9,000から9,600バイトに拡張しました。
- ・送信時間に、「3分」を追加しました。

2. ベアラ品質測定 機能改善

- ・送信帯域及び受信帯域がちょうど「1.00%」のとき、「100%」と表示される問題を改善しました。
- ・測定後保存したファイル(***.GRP)に格納されている「送受信帯域」が最初の30秒間のみ計算誤差が大きくなり本来の測定値より大きくなる問題を改善しました。

3. PING (IPv4) 機能改善

- ・1518バイトなど大きなフレームサイズでPINGのReplyをする場合PING ReplyのTTL値に「64」と「255」が混在することがありました。
TTL値は規格で定められておりませんが「64」固定としました。

FE/GbE L2 TESTER 1070A 更新履歴

■更新日 2008年7月17日 Ver.d203-0060

1. ベアラ品質測定 機能

- ・最大送信帯域と最大受信帯域を画面に表示するとともに試験結果にも保存するようにしました。
- ・ループ設定したテストでも損失を表示するようにしました。
- ・設定2の画面に、リンク速度、サイズ、使用率から計算した規準fpsを表示するようにしました。

2. PING (IPv4) 機能

- ・ARPのフレームサイズを64byteから、VLAN1使用時は68byte、VLAN2使用時は72byteに変更しました。

■更新日 2008年5月28日 Ver.d203-0057

- ・PING (IPv4) 機能を追加しました。
(システム設定でEther OAMとPING (IPv4) を切り替えて使用します。)
- ・電気インタフェースの通信速度 1000BASE-Tを追加しました。
- ・ベアラ品質測定結果の保存方法を変更しました。
(自動的に保存→操作によって保存・破棄を選択)
- ・その他の改善